

今こそ「平和」について考えてみませんか？

今年は終戦(1945年)から80年を迎える節目の年です。昨年、被爆者の立場から核兵器廃絶を訴え続けてきた日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)がノーベル平和賞を受賞したことを受け、世界の平和に対する関心は一層高まっています。

本市では、戦争の悲惨さや平和の尊さに思いをはせ、未来に向けて「平和」への思いを受け継いでいくため、「川口市平和展」を毎年開催しています。ぜひお気軽にお越しください。

川口市平和展『未来へ伝える平和の大切さ』

入場
無料

日時 7月19日(土)～23日(水) 9:00～18:00 (22日(火)、23日(水)は10:00～)

会場 中央図書館、メディアセブン

- ◆ ヒロシマ・ナガサキ原爆資料の展示
- ◆ 当時の生活用品の展示
- ◆ 戦争に関するパネルの展示
- ◆ 図書館司書によるブックトーク(本の紹介)



特別講話会

日時 7月21日(祝) 14:00～

会場 メディアセブン 申込 不要

入場
無料

第一部

被爆体験の講話

高橋 溥 氏(埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)副会長)

「突然、閃光と大音響。真っ暗になると同時に天井が落ちてきた。」
当時5歳、ヒロシマで被爆した体験を語ります。

第二部

対談

高橋 溥 氏 × 奥ノ木 信夫(川口市長)

今を生きる皆さんへ、伝えたい思いなどに関して対談します。

プロフィール

高橋 溥 氏(85歳)

5歳のときに広島県の爆心地からわずか1.5km先の自宅で被爆。
原爆破裂の瞬間、家屋が倒壊し、生き埋めになるも助け出され生き延びる。
高校生まで広島県で生活し、1960年に上京、1971年から川口市在住。

埼玉県原爆被害者協議会(しらさぎ会)

埼玉県在住の被爆者の会で、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)の構成団体。

川口市内では、木内恭子氏と高橋溥氏の2人を中心に、写真や被爆者の描いた絵を交えた被爆体験講話を市内の小・中学校などで行い、自身の体験や平和の大切さなどを若い世代へ伝える“最後の語り部”として積極的に活動しています。



(川口市立高等学校附属中学校での平和学習講演会の様子)

…しらさぎ会の講演を聞いた子どもたちの声

- 実際の悲惨さや苦しさの痛いほど伝わってきた
- 過ちを繰り返さないように、私たちも伝えていきたい
- 「うらみの記憶は未来に残さない」という言葉がすごいと思った